

日本のくだものについて感じるごと

岐阜県岐阜市立芥見東小学校

六年 岡本 大輝

ぼくは、今まで果物のことについてあまり考えたことがありませんでした。しかし学校でこのパンフレットをもらい勉強し、改めて日本のくだものについて考えてみました。

ぼくは果物に日本の四季を感じます。野菜でも感じられるけど、小学六年生のぼくはスーパーなどについても、野菜売場より果物売場に目がいつてしまいます。

一月一日、お正月。ぼくの家では毎年テーブルの上のみかんがあります。このみかんは春先の三月ぐらいいまで毎日のように食べられます。同じぐらいの時期からスーパーには、真っ赤な大つぶのいちごがたくさん並んでいます。夏の初めにはももやぶどうが売る出され、お盆にはぼくの家の仏だんにセットでお供えしてあります。夏の終わりには、なしも出始めます。この時期の果物は、すっぱいというよりはあまい果物が多いです。そして冬の初めには柿やキウイフルーツがでてきます。ぼくの家では、柿を干しておき干柿にして、春先食べるようにしています。

こんなに日本の四季を感じられるものにも関わらず、ぼくはいつもスーパーへ行くと、おかし売場へ直行することが多かったです。しかしこれからは、スーパーの店頭にある果物売場を意識したいです。

このパンフレットの最初のページに「くだものは一日二つ食べることが目安になっています」と書いてあります。ぼくの家では、どの季節にも果物があり、自然に食べていたような気がします。それは父母や祖父母が、ぼくの体を気づかせてくれていたんだということに気付きました。

「日本のくだもの」にぼくは今、日本の季節を感じ家族の温かさを感じています。